

(S29-23 用)

研究課題名	脂肪性肝疾患における飲酒量の影響の検討
研究期間	西暦 2017年 9月 1日 ~ 西暦 2018年 3月 31日
研究の目的と意義	日本人における非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の発症リスク因子は多数報告されていますが、アルコール性肝疾患を含めた脂肪性肝疾患における飲酒とメタボリックシンドロームの寄与の大きさは明らかではありません。また、NAFLD とアルコール性脂肪性肝疾患はリスクとなる遺伝子多型 (patatin-like phospholipase domain-containing protein 3 [PNPLA3]) や病理所見など共通するものもありますが、少量飲酒の NAFLD 抑制効果など、飲酒による病態への影響については完全には解明されていません。日本人にみられる少量飲酒による脂肪肝抑制効果は、アセトアルデヒド脱水素酵素 2 (ALDH2) 低活性保因者が一定の人口を占める遺伝的背景との関連が想定されています。今回脂肪肝の抑制と発症の境界となる飲酒量を探索することは病態解明、患者教育においても有用であると考えられます。また遺伝的背景と適正飲酒量との関連についても初めて検討します。
研究方法	「メタボリック症候群とそのリスク遺伝子多型が脂肪性肝疾患の病態に及ぼす影響」(承認番号 No.S24-18) において対象となった、2012年 9月から 2014年 3月の期間に当院ドックを受診した 1164 例中、肝炎ウイルス陽性・胆道系疾患・自己免疫性肝疾患・39 歳以下・80 歳以上・不適格例を除外した 1101 例を対象に、年齢・性・BMI・体脂肪率・腹囲・喫煙の有無・飲酒 (非飲酒/少量飲酒/中等量飲酒/多量飲酒)・飲酒頻度 (回数/週)・アルコールフラッシング反応の有無・高血圧・空腹時高血糖・脂質異常症を検討因子として多変量解析を行い、NAFLD のリスク因子を明らかにします。また、前述の研究において、データの二次利用に同意した患者さんについては遺伝子多型と病態との関連についても検討します。
個人情報の保護、研究参加の拒否について	利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。 また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。
結果の公表	この研究の結果は、研究に関連する学会や学術雑誌等で発表されることがありますが、その際も対象となった個々の症例の報告はなされず、集計されたデータをもとに得られた結果のみを公開し、個人情報は守られます。
問合せ先	【研究責任者】 京都第二赤十字病院 健診部 副部長 西大路 賢一 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL : 075-231-5171 (代) FAX : 075-256-3451 (代)